

主 題：最も尊い贈り物

聖書箇所：ローマ人への手紙 8章1－4節

ローマ人への手紙8章1節をご覧ください。「こういうわけで」という接続詞で始まっています。ご存じのように、これは先行文脈を受けて結論を述べる接続詞です。パウロはこれから何を語りたかったのでしょうか？この後彼は何について語ろうとしているのでしょうか？皆さんはこれまで1章から7章を学んで来られたのでよく分かっておられるはずです。それは救いのことです。というのは、このローマ人への手紙を思い出してください。1章は福音で始まり最後の16章は福音で終わります。また、私たちが見て来た1章からこの8章の終わりまで、パウロは義について、つまり、救いについて罪の赦しについて語っています。1－3章は人間の罪はさばかれるということ、3－5章は、しかしその罪はイエス・キリストによって赦されると赦しのことが語られていました。そして、6章から8章までは赦された者たちは神が喜ばれるように正しく歩んで行くという、聖化について教えられています。

3章21節からテーマが大きく変わりました。パウロはここからイエス・キリストを信じる信仰によってのみ救われるというメッセージを始めました。3：28にはこのようにありました。「**人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。**」、パウロが語ったことは、人間の罪が赦される、罪人の罪が赦されるのはイエス・キリストのみによってである、イエス・キリストだけがその罪から罪人を救うことができるということです。パウロは特にそのことを3章から私たちに語ってくれたのです。

さて、今日から学んで行こうとする8章は、いよいよパウロのメッセージのクライマックスに入っていきます。1節「**こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。**」、このようにメッセージが始まっていきます。そして、8章の最後39節には「**高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。**」とあります。お気づきになりましたか？1節も最後の39節も「主キリスト・イエスによって」、「主キリスト・イエスにある者」と記されています。実は、この8章にはそのことが繰り返されているのです。7章の後半では、パウロは「私は」「私は」と自分の信仰者としての罪との葛藤を語っていました。ところが、8章になると今度は「主イエス・キリストによって」と大きく変わって行くのです。それはなぜかと言うと、パウロはこの罪からの救い、永遠のいのちが主イエス・キリストによってのみ与えられると、そのことを強調したかったから、8章でそのことを繰り返すのです。

でも、実はこのメッセージは8章に入って初めて出て来たものではありません。パウロは5章から繰り返して教えて来ました。5：1ではこのように語っています。「**ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。**」、罪赦され神と和解を得たと。5：21では「**それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。**」と、このイエス・キリストによって信じる者には永遠のいのちが与えられると言います。6章の最後23節には「**罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**」、主イエス・キリストによって信じる一人ひとりに永遠のいのちが与えられると、その強調がされています。そして、前回見た7：25には「**私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。**」とありました。もちろん、ここでは罪のからだから解放されて栄光のからだをいただく、新しいからだをいただくと言われていて、それも救いです。

ですから、こうして見ると、救いはイエス・キリストによって与えられる、正確に言えば、救いはイエス・キリストのみによって与えられる、そのメッセージをパウロは繰り返して来たのです。そして、8章に入って、パウロは再びこの主イエス・キリストのみによって与えられる救いのすばらしさについて教えるのです。ごいっしょにみことばを見て行きましょう。

☆救いのすばらしさ

A. 救い 1節

1. 罪の完全な赦しをもたらす

1節「**こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。**」、これを読むだけで、パウロがこれから言わんとしていることが「救い」であることが分かります。なぜ

なら、「罪に定められることは決してありません。」と記されているからです。この「罪に定められる」ということばは「有罪の判決を受ける」ということで、裁判で有罪の判決を受けるそのことばです。新約聖書の中では、パウロはここ以外に二箇所しかこのことばを使っていません。この箇所と5：16「また、賜物には、罪を犯したひとりによるばあいと違った点があります。さばきのばあいは、一つの違反のために罪に定められたのですが、恵みのばあいは、多くの違反が義と認められるからです。」、そして、5：18「こういうわけで、ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行為によってすべての人が義と認められて、いのちを与えられるのです。」です。今話したように、「罪に定められる」とは神の前にあって神から有罪判決を受けることです。なぜ、有罪判決を受けるのでしょうか？神に対して罪を犯しているからです。「有罪だ、罪がある」と神によってさばかれるということですが、見ていただくと「罪に定められることは決してありません。」と否定しています。つまり、イエス・キリストを信じている一人ひとは、神の前にあって神から有罪判決を受けることは絶対にないという、その約束なのです。なぜですか？救われて罪が赦されたからです。だから、救われている者たち、罪が赦されている信仰者、クリスチャンは決して神のさばきを受けることがないのです。それだけでも私たちクリスチャンは神に対して感謝をしなければいけません。罪が赦されたということは、私たちに与えられた最高の贈り物だと思いませんか？詩篇の著者はこのように言っています。詩篇103：12「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」、東が西と絶対に出会わないように、イエス・キリストを信じたクリスチャンたちは罪から完全に引き離されて、絶対に罪に会うことがない、罪のさばきを受けることがないと教えてくれるのです。神の赦しの完全さです。神は完全にあなたの罪を赦してくださるのです。

ですから、この「救い」を私たちが考える時に最初に私たちが覚えることは、救いは罪の完全な赦しであり、このような祝福を信じる者にもたらされるものだという事です。皆さんはもうすでに学んで来て良くお分かりだと思いますが、裁判の場で裁判官が「この人は無罪である、さばかれない」と宣告をするのです。そのような宣言をしてくださる、それが救いだと言うのです。確かに、パウロはそのことをここで教えてくれるのですが、同時に、パウロはそれだけでなく、救いがもたらすすばらしい祝福の二つ目をこのように教えています。

2. 新しい歩みをもたらす

救われた一人ひとは新しい歩みを始めるのです。救いはあなたに新しい歩みをもたらしてくれるのです。これを私たちは「聖化」と呼びます。神が罪をお認めにならないことを「義認」と言います。そして、救われた私たちは同時に、神の前に聖く変えられて行きます。そのような祝福を私たちは神からいただくのです。なぜ、このことを言うのか、皆さんに思い出していただきたいのは、7章7節から最後の25節まで、パウロがイエス・キリストを信じた信仰者が救われた後に経験する「罪との葛藤」について語っていたことです。イエスを信じて、罪赦されていても、義とされていても、残念ながら、私たちは毎日の生活で罪との戦いを経験し、罪に対する敗北を経験する者です。確かに、神はこの罪のからだから私たちが解放される、その日がやって来るという約束を与えてくれました。その約束を私たちはいただいています。しかし同時に、私たちは救いをいただくことによって、かつて私たちが支配していた罪の支配からも解放されたのです。そのことは、パウロはこの後繰り返し私たちに教えてくれますが、イエスを信じて救われたということは、永遠のさばきから救い出されただけではありません。罪の束縛からも罪の力からも私たちが解放されたと、パウロは教えてくれるのです。

ですから、救われた人々はその証拠として、その証として新しい生活を始めて行くことが出来るのです。新しい歩みを為すことが可能となったのです。というのは、皆さん、救いは信じる一人ひとりに新しい歩み、新しい生活をもたらすものだからです。ジョン・カルバンはこのように言います。「キリストを分割出来ないように、彼にあって同時に得たこれら二つの義と聖という祝福も分けることが出来ない。」と、つまり、義とされる、救われるという祝福と同時に、私たち信仰者は別の祝福もいただいた。それは私たちが聖くされて行くという祝福です。この二つの祝福を分けることは出来ない。罪赦された人には聖くされて行くという働きが、その瞬間から始まるということです。カルバンは続けてこう言います。「そういうわけで、神が恵みの内に受け入れられた人はみな、子とする御霊を同時に与えられ、その力によって神の姿に似るように変えられるのである。」と。イエス・キリストを信じて罪赦された人には、聖霊なる神が与えられ、その聖霊なる神はその瞬間から、その信仰者がイエス・キリストに似た者へと変えられて行く働きを始める、これが救いだと言うのです。それがまさに聖書が私たちに教えてくれる救いです。

この8：1でパウロは、私たち信仰者に与えられた救いのすばらしさを語りました。イエス・キリストを信じた一人ひとりに神は罪の完全な赦しを与えてくれた。そして同時に、一人ひとりに新しい歩み

をもたらしたと言います。その祝福を語った後、パウロはこの1節の後半から2節で、今度はイエス・キリストを信じるクリスチャン一人ひとりが決してさばかれないその理由を語っています。

B. キリスト者がさばかれない理由 1-2節

イエスを信じた人が永遠のさばきに至らない理由、クリスチャンが永遠の地獄に至らない理由をこの1-2節でパウロはこのように教えています。

1. キリストと特別な関係にあるから 1節

1節に「**キリスト・イエスにある者**」と記されています。「…ある者」、これはその人物がイエス・キリストと特別な関係の中にいることを表わしています。クリスチャンとは神と特別な関係にある者です。

(1) 神の子ども

覚えておられますか？ヨハネ1：12「**しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**」、「**神の子どもとされる特権**」、イエスを信じている人は神の子どもなのです。そんなにすばらしい特権を神はあなたにくださった、私に与えてくださったのです。

(2) キリストのからだ

また、それだけではありません。パウロはIコリント12：27で「**あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。**」と言っています。私たちは「**キリストのからだ**」である、世界中のすべてのクリスチャンがキリストのからだに属しているのです。人種も関係ない、肌の色も関係ない、背景、性別も関係ない、イエス・キリストを信じるすべての人はこのイエス・キリストのからだに繋がるのだと言います。だから、特別なのです。神の子どもでもあり、そして、キリストのからだであるから。

でも、かつての私たちはそのような者ではありませんでした。みな生まれながらに神の子ども、キリストのからだであったわけではありません。私たちはみな生まれながらに「**神の敵**」であったのです。

パウロはローマ5：10で「**もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。**」と教えたように、「**もし敵であった私たちが**」と、あなたも私も人類すべてが生まれながらに創造主なる神の敵として生まれ、敵として生きて来たと聖書は教えているのです。パウロが記したエペソ2：12では「**そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあつて望みもなく、神もない人たちでした。**」と、生まれながらの私たちは、永遠のいのちに関して全く希望がなかった、天国に関して全く希望がなかったと言うのです。そのような存在を神はこのようにすばらしい祝福の中へと招いてくださった。神の敵であり、ゆえに永遠の滅びに至って当然の私たちを、神は特別な関係へと招いてくださったのです。このような祝福を神は信じる一人ひとりに与えてくださったのです。

そのことについて私たちはすでに見て来ましたが、ローマ6：3を見てください。そこでパウロは救われた人、本当のクリスチャンとはどのような人たちなのかを語っています。「**それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。**」、ここには二つのことが言われています。

◎本当のクリスチャンとは？

a) キリスト・イエスと一つにされた、結び合わされた者

先ほど見たように、本当のクリスチャンとは神と特別な関係にある人でした。そのことがここで教えられているのです。パウロはここで「**キリストにつくバプテスマを受けた…、その死にあずかるバプテスマを受けた…**」と記しています。ここでパウロは本当のクリスチャンとは、主イエス・キリストと一つにされた者であるということを教えているのです。そのことをぜひ思い出してください。つまり、言い方を変えるなら、クリスチャンとは主イエス・キリストと個人的な特別な関係に入れられた者であり、その人は「**キリストにつくバプテスマを受けた**」人です。つまり、これはイエスとともに生きる人だと言っているのです。「**キリストにつく**」というのは、キリストとの特別な関係に入れられるということです。ちょうど、枝が幹に繋がることによって生きるように、私たちもその幹でありいのちの源である神と繋がることによって私たちは生きるのです。その方と繋がることによって私たちは神のいのちをいただくのです。ですから、まず「**キリストにつくバプテスマ**」と、これはイエスを信じてイエスと特別な個人的な関係にある人の話をするのです。

もう一つあります。それは「**キリストの死にあずかるバプテスマを受けた**」と、パウロは説明を加えて行きます。本当に救われている人、クリスチャンはどのような人なのか？この「**キリストの死にあずかるバプテスマ**」とは、イエスとともに死んだ人のことです。イエスと繋がっているだけでない、イエスと

ともに死んだ人のことです。4節に移ると「**私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。**」とありますが、「死」、「葬られた」ということばが繰り返されているのは、完全に死んだことを強調したかったからです。ですから、パウロが言うことは、本当のクリスチャンとは、これまで自分勝手に生きて来た者、自分を一番愛して自分の思い通りに生きて来た者、創造主なる神を全く無視して好きに生きて来た者はキリストとともに死んだと、そのことを言っているのです。

b) 主イエスのおことばに喜んで従って行こうとする者

ですから、イエスを信じている人、本当のクリスチャンとは、ただ何となくキリストが好きだとか、キリスト教が好きだとか、聖書に関心があるとか、そのような人を指しているではありません。イエス・キリストと個人的な関係を確立し、そして、生まれ変わった人のことです。言い方を変えるなら、その人はイエス・キリストのおことばを喜んで受け入れて、喜んで信じて、喜んでそのことばに従って行こうとする人々です。そして、そのような本当の信仰はその人を生まれ変わらせます。それが聖書の教える信仰です。

イエスはイエスを信じた人々におもしろいことをお話になっています。ヨハネ8：31-32「**そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。：32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」**

と、ここでイエスは本当のクリスチャン、本当に救われている人の二つの特徴を述べたのです。

(1) **わたしのことばにとどまるなら**：これは、習慣的に神のおことばである聖書を学び、それを心から受け入れ信じそれに従って行こうとする人たちです。神のおことばを自分の生活に適用して行こうとする人です。

(2) **真理を知り**：そして同時に、本当に救われた人は生活が変わった人です。32節「**あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。**」、神のおことばである聖書のみことばを通して私たちは真理を知るのです。その真理が私たちを自由にすると言います。罪の束縛の中に生きて来た私たちはそこから解放されて神の前に喜ばれる歩みを選択する者へと変えられて行くのです。

この間、多方面で活躍されているあるクリスチャンの方とお話ししているときに、その方はこのようなことをおっしゃるのです。「日本におけるクリスチャンの寿命は二年半ぐらいです。」と。寿命が二年半とはどういうことでしょうか。「教会に来てイエスを信じて大体二年半ぐらいでその信仰から離れる」ということです。これまで三年だったのが今は二年半と短くなった、そして離れてしまうと言います。私は「その人は本当にクリスチャンでしょうかね。」と言いました。そういう人が多いと言うのです。教会にやって来て、聖書の話聞いて、信じると言っているながら、その信仰は本物であったかどうかです。おかしいでしょう？クリスチャンの寿命が三年弱だなんて…。なぜなら、本当の信仰は神が与えてくださるものであり、神がその人を救ったらその救いは永遠に続くからです。神がくださる信仰はそのようなものです。神がくださる救いは何年間かで死に絶えるものではないのです。

ですから、パウロはローマ8：39で「**高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。**」と言いました。あなたがさばかれることは絶対がない、パウロは救いは永遠のものだと言うのです。では、私たちが考えなければいけないことは、私たちの信仰は本物かどうかです。なぜなら、聖書が私たちに言うのです。イエスを信じたと言うユダヤ人に対してイエスが言われたことは「**あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。**」、「いや、あなたがたは信じていない。あなたがたはまだあなたたちの父であるサタンである悪魔の子どもだ」と。聞いていた人たちはビックリしたでしょう。

本当に信じたのならあなたは変えられて行くと言うのです。あなたは常にみことばに立ち、みことばを愛し、みことばに従い、みことばを適用して行く、そして、あなたの生活は変わって来ると言うのです。それが起こっていなければその信仰は、たとえ人が認めたとしても神はお認めにならないのです。神が与える聖書の信仰とは違うからです。

先ほど、私たちはローマ書の6章を見ました。もう一度開いてください。パウロはそこで、本当のクリスチャンはどのような者かを語っていると見ました。「キリストにつくバプテスマを受けた者」、「イエスとともに生きる者」になった、キリストの死に与るもの、イエスとともに死んだ者だと見ました。その次を見てください。4節の後半ですが「**それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえ**

られたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」とあります。つまり、クリスチャンとはイエスと個人的に繋がっただけでない、イエスとともに死にイエスとともによみがえった者なのです。よみがえった者だから新しい歩みを為すことが出来るのです。そのように聖書が教えています。

「いのちにあって新しい歩みをするため」に神がその人を救ってくれる、その人を生まれ変わらせてくれるのです。

だから、生まれ変わった本当に救われた人々は新しい歩みを継続して行くと言うのです。すべて、これは継続的、習慣的なことです。

皆さんはもう分かっておられるように、イエスを信じた私たち、あの信仰の勇者であったパウロでさえもローマ7章で自分自身の罪との葛藤を教えてくださいました。罪を犯さないクリスチャンは一人もいません。しかし、本当に救われたクリスチャンはその罪を放ってはおかないのです。神の前に告白しようとし、パウロと同じように「神さま、私は情けないです。あなたの前に喜ばれることをしたいと願っていても私の生活はそれと逆のことをしています。だから、どうぞ助け続けてください。あなたの助けが必要です。」と。これはまさに生まれ変わった人の特徴です。なぜなら、神に喜ばれることをして行きたいと言うからです。かつては罪の奴隷であって為すことは罪ばかりでした。何かやった後、良心の呵責を得たとしても、それらを繰り返している内にそれらなくなってしまいました。自分が楽しければそれで良い、自分が好きなことだからそれで良い、だれにも迷惑をかけていないからそれで良い、私の人生だから自分の好きなように生きていたのです。でも、神はその罪の束縛から解放してくださって、私たちが初めて、私たちが創造された目的に沿って生きることが出来るように生まれ変わらせてくださったのです。私たちが造ってくださった神のために生きるという、本来の生き方が出来る者へと変えてくださったのです。それが救いなのです。イエス・キリストとともに死に、イエス・キリストとともによみがえった人、個人的なつながりをもつゆえに、主が喜ばれる新しい歩みを為して行く人、これが聖書が教える本当のクリスチャンの特徴であると言うのです。

さて、もう一度8章に戻ってください。イエス・キリストを信じる者に、神はすばらしい救いという祝福を与えてくださいました。そして、救われた一人ひとりはこの神の審判、さばきに会うことはない、なぜなら、キリストと特別な関係にあるからと教えました。

2. 解放されたから 2節

二つ目にパウロが教えることは、2節にある通り、クリスチャンがさばかれないのは、その人は解放されているからと言います。「なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」と。この文の主語は「いのちの御霊の原理」です。つまり、この「いのちの御霊の原理」が何かの働きをするということを言っているのです。どのような働きをするでしょう？それは「あなたを解放する」という働きです。それがこの2節でパウロが伝えたかったことです。私たちがそのことを理解するために、この「いのちの御霊の原理」とは何なのかを見ましょう。皆さんは恐らく「御霊」ということばを見ると、これは「聖霊なる神」のことだとお考えになるでしょう。その通りです。では、なぜここに「いのち」という名詞が付いているのでしょうか？なぜ、聖霊なる神に「いのちの」という説明を加えたのでしょうか？難しいことではありません。聖霊はすべてのいのちの源だからです。神だからです。聖霊は求める者にいのちを与えることの出来るお方です。なぜなら、神だからです。いのちの源でありいのちを与えることが出来る方です。ですから、ヨハネ6：63には「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」と記されています。いのちを与えるのは御霊、聖霊なる神です。今見ているローマ8：11にもこのようにあります。「もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。」、つまり、聖霊があなたのうちに住んでいるなら、聖霊はあなたにいのちを与えてくれると言っているのです。ですから、パウロはここで聖霊なる神がどのような存在であるかということを説明したのです。

では、この「原理」ということばは何でしょうか？ここでは「原理」と訳されていますが、実は、このことばは別の箇所では「律法」と訳されています。たとえば、私たちが今見ている3節には「律法」とあります。これは同じギリシャ語が使われているのです。パウロは敢えて、この2節のことばを「原理」と訳したのです。それには意味があります。ここで言いたかったことは「力の原理」のことです。行動へと駆り立てている影響、また、力のことです。あるものがその人の内に働いて、その人にある行動を起こさせるように影響を及ぼして行く、そのような意味でこのことばが使われているのです。つまり、ここで言っていることは「聖霊なる神の力」です。聖霊なる神はどんなことをするか、どのような力をもってどのようなことをするのか、そのことをパウロはここで言ったのです。それはすでに見たように「解

放する」ということでした。何から解放するのか？「**罪と死の原理から解放する**」のです。罪とは神がこのように歩みなさいと言われるその正しい道から外れていることです。あるべき道から逸脱している、それが罪です。聖い正しい神は私たちにすべての点で聖くありなさい、正しくありなさいと言われました。ところが、私たちはそのような神の命じている命令にことごとく逆らっています。歩むべき道から外れてしまっている、進むべき道から外れてしまっている、私たちが造られたまことの神を信じてその方に従って行くというあるべき姿から外れて、自分の思い通りに生きているのです。罪の生活です。また、死とは私たち人間が生まれながらにもって来たものです。皆さんがご存じのローマ6：23にあるように、死ということばには三つの意味があります。肉体的な死、肉体に死を迎えること、私たちは生まれながらに一日一日と死に向かっています。これが肉体的な死です。しかし同時に、霊的な死があります。祝福の源である神との関係が断たれているゆえに、その神から特別な祝福をいただくことができないのです。神を受け入れないゆえに、神に逆らっているゆえに、神の特別な祝福を得ることがないのです。霊的に死んだ状態です。そして、永遠の死があります。人間は死んで終わらないのです。その後、永遠を過ごすのです。神とともに祝福の内に過ごすのか、それとも神に逆らった罪ゆえに永遠のさばきに至るのかです。

私たちはこの罪に対しても死に対してもどうすることも出来ませんでした。「**罪と死の原理**」、「**原理**」とは「力」です。つまり、生まれながらに罪が私たち自身を支配し行動を支配していたのです。そのような力をもっていたのです。ですから、罪から逃れることが出来なかった。「**死の原理**」、「**死**」に対しても私たちは無力でした。だから、私たちがしたことは死に関して考えないようにしよう、考えなければ少なくとも不安に陥ることがないからというものでした。「**罪と死の原理**」、この力から私たちはどうすることも出来なかった。でも、神がしてくれたのです。その力、支配から私たちが解放して自由にしてくださったのです。「**罪から解放されて、義の奴隷となったのです。**」と6：18でパウロが教えました。

イエスを信じた者たちは、その束縛の罪から解放されて、そして今度は、神に仕える者となったのです。イエスを信じる者たちは、永遠の死、永遠の滅びへと向かっていたのが、そこから救い出されて永遠のいのち、天国に至るようになると変えられたのです。ですから、この8：2に「**いのちの御霊の原理**」と記されているのは、聖霊なる神、力ある聖霊なる神、全能なる神があなたのうちに働いて、あなたをその束縛から解放してくださったと教えているのです。そして、それだけではありません。あなたを束縛から解放して本当の自由をくれただけでなく、あなたを生まれ変わらせてくださったのです。この「**解放した**」ということばの動詞の時制を見ると、非常に面白い時制を使っています。皆さんに何度かお話ししたように、ギリシャ語にしかない「不定過去」という時制です。過去のことです。しかも、その動詞の時制の中には、これから事を始めて行くというときに使われる用法があるのです。ここでこの「**解放した**」という動詞をパウロがそのような時制、用法で用いることによって彼が言いたかったことは、イエスを信じて救われたときに、神の全能の力はその信じた人のうちに働いて、その人は新しい働き、新しい生き方を始めて行くと、そのことを言っているのです。

だから、今まで私たちが見て来たように、救いとはイエスを信じて罪赦されて永遠のいのちが与えられて、それで終わりではないのです。始まりなのです。新しい生活、神の栄光を現わす生活の始まりなのです。ですから、私たちは「**解放した**」ということばを見ると、何となく自由になったと言いますが、パウロが言いたかったのはそれだけでなく、あなたは生まれ変わり、そして、かつて出来なかった神を喜ばせるという新しい神が望んでいる本来の生き方を、あなたは始めることができる者へとなったということです。それを可能にしたのは、全能なる聖霊なる神だとパウロは教えるのです。

先ほど、私たちが見たローマ人への手紙6章4節にも、全くそのことが記されていました。最後のところに「**私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。**」と。新しい歩みをするため、これまでとは違う生き方です。新しい生活が始まるのです。なぜでしょう？最初に見たように、キリストともに死んだ者はキリストともによみがえるからです。新しく生まれ変わった者にはそれに相応しい生き方が伴うのです。「**いのちにあって新しい歩み**」、これは質とか性質において新しいということです。これまでには罪が私たちの特徴でした。しかし、生まれ変わることによって、義、正しさ、聖さが私たちの特徴となるのです。これらをすべて可能にしてくれたのは私たちの力ではありません。私たちが救ってくれた神の力です。ですから、パウロは8：2で「**いのちの御霊の原理**」、その力があなたを解放し、あなたを救い、あなたが新しく生きて行くことが出来るようにしてくれたと言うのです。

神はすごいわざを為されたと思いませんか？ただあなたを罪から救ったのではありません。このように生まれ変わらせてくださって、そして、この地上にあって、失敗の連続で罪に罪を重ねる私たちですが、そんな私たちが神は使って、私たちの救い主なる神の偉大さを現わすために用いてくださるのです。このすべての救いは神からの一方的な贈り物です。

最後に見たいのは、8章2節で「解放」の前に人称代名詞がつけられているところです。「あなたを」と単数形です。救いというのはあなた個人のもので、あなた個人が決めなければいけないことです。家族単位ではありません。あなた個人のことです。あなたがイエス・キリストを心から信じ、この方に従って行こうと選択するならば、主はあなたを救ってくださる。この救いはあなたの努力によっては得ることの出来ないものです。8：3の初めを見てください。「肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。」とあります。つまり、人間には出来ないことを神はしてくれたということをこれから教えて行くのです。あなたがどれ程心を入れ替えますと決心しても、これから私は正しく歩みますと決心しても、あなたの行ないによって、この罪の赦しをいただくことは不可能です。これは神の恵みです、神があなたにすばらしい贈り物として与えてくださるものです。

私たち人間がこの神に対して取るべき態度は、「神さま、私はあなたの前に、あなたに逆らって罪の歩みをして来ました。私はそのような生き方をこれからも継続するのではなくて、今日止めて、あなたを信じて、あなたに従って行きたい。私の罪を赦すために救い主イエス・キリストが来られ、そして、あの十字架の上で私に代わっていのちを捨ててください、そして、約束通り三日後によみがえってください。キリストは救い主です。私はあなたを信じてこの救いをいただきたい。どうぞ、私を今日あなたのあわれみによって生まれ変わらせてください。私はこの新しいいのちをいただきたい。」です。ことばはともかく、心から主の前に罪を悔い改めてイエス・キリストを信じる選択をするならば、主はあなたを救ってくださる。私たちに出来なくとも、この方には可能なのです。なぜなら、この方は不可能の全くない全能なる神だからです。どうぞ、その方の前に救いを求めて出て行くことです。

そして、救われている皆さん、神はこんなにも大きな祝福をあなたにくださった。私たち信仰者には感謝することがたくさんあります。そして、その中で私たちが最も感謝すべきことは、私のような罪人を神は一方的にあわれみ、救いをくださったことです。感謝をもって歩みましょう。そして、喜びをもってこのメッセージを語りましょう。「イエス・キリストが私たちの救い主だ！」と。